

第5次総計後期基本計画策定に係る市民委員募集の際の小論文内容の概要整理

基本施策	意見	
1-1仕事と子育てを両立できる環境整備を進めます	「芦屋市立小学校に通う子どもの保護者として、学校の変化に驚きを感じている」 「校舎建て替えや学童保育の満員など、過去にはなかった課題に直面している」	
1-2子どもの命と健康が守られ、安心して子育てできる環境をつくります	「交通インフラの見直し、高齢者・子育て世代への支援、地域コミュニティの活性化など、多角的な取り組みが必要」	
1-2子どもの命と健康が守られ、安心して子育てできる環境をつくります	「子育て支援の充実、魅力ある公立学校教育、市政と市民の連携など、総合的な取り組みが必要」	
1-2子どもの命と健康が守られ、安心して子育てできる環境をつくります	「子育て世代として、芦屋市の子育て支援策に関心がある」	
2-1子どもや若者の健全な成長を支えます	「子供たちが自由に遊び、才能を伸ばせる環境作りが重要」	
2-1子どもや若者の健全な成長を支えます	「若者が活躍できる環境が不足しているように感じる」	
2-2就学前教育・保育施設、学校、家庭、地域が連携・協働し、未来を見据えた教育環境を整えます	「地域の力を活かし、先生方の負担を軽減する取り組みが必要」	
2-2就学前教育・保育施設、学校、家庭、地域が連携・協働し、未来を見据えた教育環境を整えます	「子育て支援の充実、魅力ある公立学校教育、市政と市民の連携など、総合的な取り組みが必要」	再掲
2-2就学前教育・保育施設、学校、家庭、地域が連携・協働し、未来を見据えた教育環境を整えます	「公立学校の魅力向上や、市民が自由に集える空間の整備など、様々な取り組みが必要」	
2-2就学前教育・保育施設、学校、家庭、地域が連携・協働し、未来を見据えた教育環境を整えます	「教育面での魅力が不足しているように感じる。公立学校の教育内容の充実や、若者が集える施設の誘致など、様々な取り組みが必要」	
3-1文化の継承と活用に努めます	「生涯教育の充実が、芦屋の魅力を発信し、多くの人に愛される街につながる」「音楽やアート、スポーツなどの学びの機会を提供し、市民の活力を引き出すことが必要」	
3-1文化の継承と活用に努めます	「『芦屋アイデンティティ』として、グルメ、アート、スポーツの魅力を高めていく」	
3-2市民による学びの仕組みづくりを進めます	「人づくりが重要」「子供たちの自己理解を深め、大人と子供が互いに学び合える環境を整備することが必要」	
4-1地域共生社会の実現に向けた取組を推進します	「近所付き合いが希薄で、地域コミュニティの醸成が課題」	
4-2誰もが地域で暮らしやすいまちづくりを進めます	「地域の多様性を尊重し、バリアフリーなまちづくりを進めることで、誰もが快適に生活できる環境を整備する」	
4-2誰もが地域で暮らしやすいまちづくりを進めます	「高齢者の福祉活動にも取り組んでいる」	
4-2誰もが地域で暮らしやすいまちづくりを進めます	「世代間の『縦のつながり』が欠落しているため、高齢者から若者への知恵の継承が必要」	
4-2誰もが地域で暮らしやすいまちづくりを進めます	「交通インフラの見直し、バリアフリーの整備、子育て支援の充実など、多角的な取り組みが必要」	
4-2誰もが地域で暮らしやすいまちづくりを進めます	「国際文化住宅都市としての魅力を高め、インフラの整備や高齢者・生活弱者への支援など、住みやすさを高める取り組みが必要」	
4-2誰もが地域で暮らしやすいまちづくりを進めます	「若者が地域に関心を持ち、高齢者と交流できる機会を設けることが重要」「子供食堂のような場所を設け、世代を超えた交流を促進することで、活気ある街づくりができる」	
4-2誰もが地域で暮らしやすいまちづくりを進めます	「地域の人々が協力し、世代を超えた交流を深められるような取り組みが必要」	
4-2誰もが地域で暮らしやすいまちづくりを進めます	「大学生の視点から、誰もが暮らしやすいまちづくりに貢献したい」	
4-2誰もが地域で暮らしやすいまちづくりを進めます	「交通インフラの見直し、高齢者・子育て世代への支援、地域コミュニティの活性化など、多角的な取り組みが必要」	再掲
4-2誰もが地域で暮らしやすいまちづくりを進めます	「高齢者と子育て世代の両方のニーズに応えられるよう、多世代が共生できる環境づくりが重要」	
4-2誰もが地域で暮らしやすいまちづくりを進めます	「高齢者と若者が交流できる場の提供も重要」	
5-1市民の健康づくりを促し、いつまでも自分らしく生き生きと過ごすことができる取組を進めます	「住民一人ひとりの『自己肯定感』を高めることが重要」 「自己理解を深め、創造性を発揮できる環境づくりが必要」	
5-1市民の健康づくりを促し、いつまでも自分らしく生き生きと過ごすことができる取組を進めます	「市民のための『人生の教科書』のようなガイドブックの作成を提案」	
6-2環境へ配慮した都市生活の仕組みを築き、意識を高めます	「再生可能エネルギーの導入や廃棄物リサイクルの推進」 「持続可能な芦屋のまちづくりには、環境、社会、経済の3つの側面を考慮する必要がある」	
6-2環境へ配慮した都市生活の仕組みを築き、意識を高めます	「芦屋市のごみ問題への取り組みを例に挙げると、ごみ袋の有料化や事業者への呼びかけなどが行われているが、根本的な条例の見直しが必要」	
6-2環境へ配慮した都市生活の仕組みを築き、意識を高めます	「EV車の普及促進や水素バスの導入など、先進的な取り組みを通じて、芦屋が環境モデル都市として発信していくことが重要」	
6-3本市の特性に合った商業の活性化を目指します	「街の活気が感じられないことが気になる」	
6-4行政サービスの利便性を高めます	「ICTを活用した行政手続きの簡素化やイベント情報の共有など、市民が主体的に参加できる仕組みづくりが重要」	
7-2自助、共助、公助の連携により、災害に備えます	「阪神淡路大震災の経験を次世代に伝え、市民の絆を深める取り組みが重要」 「市内の施設や学校などで、震災について考える機会を設けることで、芦屋の強さと魅力を発信できる」	
8-1地域などと連携し防犯の向上に取り組めます	「交通インフラの見直し、高齢者・子育て世代への支援、地域コミュニティの活性化など、多角的な取り組みが必要」	再掲
9-2良好な景観を守り、魅力を伝えます	「芦屋は自然豊かな街で、子供時代は自然を楽しむ遊びが盛りだくさんだった」 「しかし、高層マンションの建設などで自然環境が変化している」	
10-1持続可能な交通インフラを保全します（道路・橋梁）	「交通インフラの見直し、バリアフリーの整備、子育て支援の充実など、多角的な取り組みが必要」	再掲
10-1持続可能な交通インフラを保全します（道路・橋梁）	「交通インフラの見直し、高齢者・子育て世代への支援、地域コミュニティの活性化など、多角的な取り組みが必要」	再掲

10-2持続可能な生活インフラを保全します（上下水道・ごみ処理施設）	「ごみ=処分ではなく、再生利用を前提とした条文の追加が重要」	
10-3市内交通の円滑化に向けて取り組みます	「JR芦屋駅周辺の大規模な再開発計画にも期待を寄せている」	
10-3市内交通の円滑化に向けて取り組みます	「交通の利便性が高く、自然環境も豊かだが、高齢化や子育て世代の流出など、課題も抱えている」 「交通インフラの見直し、バリアフリーの整備、子育て支援の充実など、多角的な取り組みが必要」	
11-1地域が主体となってまちづくりを行う仕組みを構築します	「地域住民との協働を重視し、芦屋市の持続可能な未来に向けて進化することが重要」	再掲
11-1地域が主体となってまちづくりを行う仕組みを構築します	「芦屋には多くの有名人が輩出されており、『人とのつながり』が大切」	
11-1地域が主体となってまちづくりを行う仕組みを構築します	「地域、学校、行政が協力し、知恵を出し合うことが大切」	
11-1地域が主体となってまちづくりを行う仕組みを構築します	「市民一人ひとりが芦屋の未来を考え、協力して取り組むことが重要」	
11-1地域が主体となってまちづくりを行う仕組みを構築します	「ICTを活用した行政手続きの簡素化やイベント情報の共有など、市民が主体的に参加できる仕組みづくりが重要」	再掲
11-1地域が主体となってまちづくりを行う仕組みを構築します	「コミュニケーションロボットの活用など、人との関わりが苦手な人にも配慮した取り組みが必要」	
11-1地域が主体となってまちづくりを行う仕組みを構築します	「住民の声を反映し、愛着を持って参加できるまちづくりを目指したい」	
11-1地域が主体となってまちづくりを行う仕組みを構築します	「公立学校の魅力向上や、市民が自由に集える空間の整備など、様々な取り組みが必要」	
11-1地域が主体となってまちづくりを行う仕組みを構築します	「市と住民が議論を重ね、最適な解決策を見出していくべき」	
11-2効果的・効率的に情報共有に努めます	「芦屋に住むようになって14年、芦屋は全国的に羨望的で、誇りを持って住んでいる」	
11-2効果的・効率的に情報共有に努めます	「医療、食事、住居、教育、子育て、ビジネスの6つの要素がバランス良く整備される必要がある」	
11-2効果的・効率的に情報共有に努めます	「高級住宅街のイメージが強いが、若者にも魅力的な街になるよう、様々な取り組みが必要」	
12-1長期的視点に立った行財政改革を行います	「芦屋市は市民の税金で運営されているため、無駄のない行政運営が求められる」	
12-1長期的視点に立った行財政改革を行います	「30年後の芦屋のあるべき姿について夢を語り、それを実現するための短期・中期・長期の取り組みを提案している」	
12-1長期的視点に立った行財政改革を行います	「新たな財源の確保や人材の育成が重要」 「『まちづくり会社』の設立や、国・県の予算活用、先進企業とのコラボレーション、資金運用の見直しなどの取り組みが考えられる」	
12-2持続可能な行政サービスの提供に向け、官民に捉われない施設の効率的な運営や最適な配置を進めます	「国際文化住宅都市としての魅力を高め、インフラの整備や高齢者・生活弱者への支援など、住みやすさを高める取り組みが必要」	
12-2持続可能な行政サービスの提供に向け、官民に捉われない施設の効率的な運営や最適な配置を進めます	「公共施設の統廃合については、住民の意見を十分に反映させる必要がある」	